



# 喜多埜

## 七五三

七五三は数え三歳の男女、五歳の男子、七歳の女子の健やかな成長と健康を祈って氏神さまに詣でる人生儀礼の一つです。

今月十五日が七五三の日とされていますが、これは江戸時代の徳川五代將軍、徳川綱吉の子息の七五三の日が十五日であった事から広まった風習であり、現在では十五日にこだわらず、十一月中の吉日や土日に参加される方が増えています。

何故十一月なのかというと、はつきりとした事は分かってはいませんが、この十一月は収穫の時期と重なる事から、神々への収穫感謝と、次代を担う子供の成長を併せて祈願したのが始まりではないかといわれています。現代の日本人には収穫感謝と七五三と何の関係があるのかと不思議に思いがちですが、小児医療の発達した現代とは違い、昔は栄養状態も悪く、子供が成人する確立が大変低く、その為、子供にお腹一杯ご飯を食べさせてあげられる事が、親にとっては何よりの願いでした。そうした願いが、収穫時期での成長祈願に繋がったといわれています。

開発途上国では今も飢えに苦しむ子供が後を絶ちません。そういった国の中には、七五三と同じく収穫時期に子供の成長を親族みんなで祈る民族があるそうです。そういった国の人々の純粋に子供の成長を願う心と比べて、今の日本人にとって、カタチだけの七五三になっていないかと心配な思いです。

## 御太刀奉納

当神社の永い歴史のなかで、御祭神のご神徳を景仰して奉養の真心を捧げた人は数え切れません。そして昨年十五日の秋祭において、その歴史の一齣となる太刀のご奉納を当社の崇敬者であられる、小畑 清氏より頂きました。

小畑氏は代々、当神社の祭礼においては地車の世話役としてご奉仕いただき、当神社の祭礼が過疎化や交通事情により神事だけとなった現在も、祭礼行事には必ずご助勤頂き、また大祭の前には必ず清掃奉仕をして頂くなど篤い崇敬心をお持ちの方として知られています。

本年、小畑氏は還暦を迎えられるにあたり、日頃お護り頂いている氏神さまへの御礼の意味を込めて太刀の奉納を思い立たれ、五年がかりで、梅鉢の紋様まぶしい、梨地蒔絵の施された公家造りの鞘に、熊本の刀工の鍛えた玉鋼の太刀を、御神前に供せられました。

「昔はやる人がいたが、今の時代にもこういう人がいてもいいじゃないか」

この小畑氏の言葉にこそ、太刀に込めた幾世代にもわたって伝えていきたい真心が詰まっているといえるのではないのでしょうか。

### 神社携帯サイトのQRコード

ドコモ、ソフトバンク  
AU、PC 対応



編著 網敷天神社 禰宜(神主)

白江 秀知

